

# 第4回委員会における指摘事項等への対応について

## 資料 1

### (第2章 動向・課題関係)

番号	意見・指摘事項等	対応
1	デジタル田園都市国家構想に関する記載がない。総合発展計画との整合性の観点からも記載が必要。	第2章2(1)に「デジタル田園都市国家構想の実現に必要な交通の整備」を追記(本文P30)
2	「国内広域ネットワークに関する動向」の中で、ミッシングリンクや鉄道ネットワークの必要性について言及が必要。ローカル鉄道は、地域交通の面だけで捉えると存続が難しく、観光周遊など広域ネットワークとしての活用が必要。	第2章2(2)に「高規格道路や在来線鉄道による広域ネットワークの重要性」を追記(本文P31)
3	「安全・安心な交通の確保」について、個別施設の安全性だけでなく、リダンダンシーや複層的ネットワークの視点も必要。	第2章4(1)に「複層的な交通ネットワークによるリダンダンシー機能の確保」を追記(本文P35)

### (第3章 将来像関係)

番号	意見・指摘事項等	対応
1	第2章の動向・課題と、第3章の目指す将来像のつながりがわかりにくいので、関係性を示すようにしてほしい。	第3章の「交通の充実によって実現する山形県の将来像」において、それぞれの将来像と交通の関連性を文章で記載(本文P38)
2	「安全・安心な暮らし」の要素が、取組の方向性の中で示されていない。米沢トンネルやミッシングリンク解消は、安全・安心にもつながるため、1つ目の柱に安全・安心の要素を入れてほしい。	第3章の「山形県が目指す交通の将来像」の1つ目の柱の「取組の方向性」に、安全・安心、リダンダンシーの確保に関する記載を追記(本文P39)
3	「地域の暮らしを支える利便性が高く持続可能な地域交通の構築」について、利便性の向上には限界があり、もう少しトーンを落とした方がいいのではないか。	第3章の「山形県が目指す交通の将来像」の2つ目の柱を「地域の暮らしを支える、誰もが利用しやすく持続可能な地域交通の構築」に修正(本文P39)
4	「様々な分野との連携等による交通需要の創出、交通の利用拡大」について、取組の方向性の文章においても、他分野連携を明記してほしい。	第3章の「山形県が目指す交通の将来像」の3つ目の柱の「取組の方向性」に、他分野連携に関する記載を追記(本文P40)
5	広域交通ネットワークのイメージ図について、交通を強化したいところにだけ矢印が書かれており、回遊性、回廊を示す記載もほしい。	第3章のイメージ図を修正(本文P41)

## (第4章 施策関係)

番号	意見・指摘事項等	対応
1	「特に重点的・短期的に取り組む施策」と「中長期的・継続的に取り組む施策」という分け方がわかりにくい。中長期的なものは重要でないように見えてしまう。重点と短期は必ずしもリンクしないところにも違和感がある。	第4章において、施策の分け方を「特に短期的に取り組む施策」とそれ以外の施策に修正。「特に短期的に取り組む施策」については、「今後数年程度の間で完了が見込まれる施策や、集中的に取り組む施策」と定義することとした。(本文P42以降)
2	航空政策は、マーケティングに基づいて進める必要がある。観光客をターゲットにするのであれば、二次交通が重要。庄内空港において、5便化の定着や関西圏路線の創設等を進める上では、観光客を増やすことが必要であるが、庄内空港は二次交通が充実していないことが課題。	マーケティングに基づく航空利用拡大については、第4章の柱3の施策「県内空港の利用拡大の推進」に、空港からの二次交通については、第4章の柱1の施策「全国とつながる国内航空ネットワークの拡充」に反映(本文P46,42)
3	まちづくりとの連携について、都市計画側でも交通のことをしっかり考えることが必要。意識醸成や他部門との認識のすり合わせをしっかりと行ってほしい。観光周遊も、各部門は一生懸命やっていると思うが、本格的な連携に至っていない。	今後施策を検討する中で、ご指摘を踏まえていく。
4	東北中央自動車道は物流の要衝であり、中継輸送の拠点になり得る可能性があるため、今後中継拠点の整備も検討していくべき。	

## (その他)

番号	意見・指摘事項等	対応
1	全体的に県が頑張っているという印象を強く受ける。カーボンニュートラルなどは、県民が責任をもって協力しなければ実現できない。事業者の経営継続の努力も必要。各主体の役割を図などで示してはどうか。	本文内に「関係者の役割」として表形式で記載(本文P48)